

番組研究委員会 実践レポート (中-道徳)

○中道 4

1 提案者 山岸真大 (岡谷市立岡谷北部中学校)

2 提案内容

(1) 単元名「友情って何？」

(2) 利用した番組名「ココロ部」

(3) 授業のねらい

文化祭を直前に控えた生徒たちが、「友情とは何か」を考える場面で、NHK for School の「ココロ部～最後のリレー～」を視聴し、陸上部キャプテンのコジマ君の立場になって考えたり、友と意見を交換したりすることを通して、友情についての自分の見方や考え方を広げたり深めたりすることができる。

(4) 授業の実践記録

段階	学習活動	生徒のようす	指導・助言	備考
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を振り返る。 「友情」とは何か、今の自分の考えを記入する。 「友情」で困ったことはあるか問う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員「ない」と首を振る。 「なにかあったとき話し合える関係」 「自分の思っていることを伝え合える」 「協力し合う、素を出せる、喧嘩ができる」 4名の生徒が挙手した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「友情」について考えたことはあるか問う。 「友情」と聞いたときに、自分が思いつくこと、イメージでも良いことを伝えた。 	Google の jamboard を利用
なか	<ul style="list-style-type: none"> 「ココロ部～最後のリレー～」の視聴(4分50秒まで) 「監督に話す」か「話さない」か自分の理由と意見を記入する 動画の続きを最後まで視聴する 	<ul style="list-style-type: none"> 「え～。これはどうする」と全員がすごく悩んでいる様子。 ○「監督に話す」理由 <ul style="list-style-type: none"> たとえ親友だとしても、怪我をしていたら親友とも話して納得させて監督に話すと思う。 話すけどそれがきっかけで喧嘩になって仲が悪くなるかもしれない。 ○「監督に話さない」理由 <ul style="list-style-type: none"> 一緒に頑張った仲間だからこれで最後になっても一緒に頑張って走りたい。 もしタクヤが速く走れなくてもみんなでカバーする。タクヤが100%の力を出せなくてもみんなが100%以上を出す。 「これはもうどうしたらいいかわからない」 「監督に話すか話さないか決められない」 更に悩む様子だった。 	<ul style="list-style-type: none"> jamboard に班ごと分かれて記入するよう指示した。 	



<p>・感想記入</p>	<p>・班ごとに意見交換をしながら、自分ならどう決断するか考える</p>	<p>・「もう保護者に意見を聞いて決めてもらいたい。」 ・キャプテンとしての立場と親友としての立場で、どう決断するか悩む様子があった。</p> <p>○「監督に話す」意見 ・親友でもけがをしているから納得させて監督に言う。タクヤも自分のせいで負けたら悲しいだろうから、そこを理解してもらおう</p> <p>○「監督に話さない」意見 ・リレーは勝ち負けだけじゃないことを他のメンバーに伝えて納得してもらおう</p> <p>・最初は走らせてもいいかなって思っていたけど、気持ちの優先順位で考えたら走らせないほうがいいと思った。 ・どっちの気持ちもわかるからすごく迷った。自分の私情だけじゃなくて、キャプテンとしての責任があるから、そのうえで決断を迫られるのは難しいことだと思った。</p>	<p>・タクヤとの友情を優先すれば、他のメンバーの気持ちをくみ取れないし、逆をすればタクヤの気持ちがかみ取れなくなってしまうから、どちらか決断したあとには、その後のフォローをどうするかを考えなければいけないことを伝えた。</p> 
--------------	--------------------------------------	--	---

(5) 考察

番組の内容が、「親友」としての立場と、「キャプテン」としての立場でわかりやすく気持ちが揺れ動くものだったので、生徒たちもコジマ君の気持ちに寄り添って考えやすかった。また、当事者だけの問題ではなく、「監督や保護者など、周りで応援してくれている人の気持ちも考えないとね」など、様々な視点を与えてくれているので、「ああそうか、そういう人たちの気持ちも考えないといけないよな」と、自然と多面的に考えることができた。また、そういったことがきっかけで、「タクヤの怪我の具合によっても変わるな」とか、「代わりにシュンが走って優勝して、上位大会に進めればタクヤも今より万全な状態で走れて、周りも納得するのではないか」など、多角的に考えることができた。今回の学習を次につなげるとすれば、どちらかを決断した後、優先されなかった方の気持ちをくみ取り、「どのように言葉がけや行動でフォローしていくのがよいか」ということを更に深く考えていくことが必要だと感じた。「決断した先」のことまで考えをめぐらせることができれば、よりよい人間関係づくりや、様々なできごとへの対処ができるようになると思った。

授業の最後に、「授業を通して、ものの見方や考え方の視点が広がったか」「自分で考えたり友達のことを聞いたりする中で、考えを深めることができたか」「自分の生活に置き換えて考えることができたか」という3つの質問を、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4択で回答するように Google forms でアンケートを行った。その結果、「授業を通して、ものの見方や考え方の視点が広がったか」については、「そう思う」が100%、「自分で考えたり友達のことを聞いたりする中で、考えを深めることができたか」については、「そう思う」が73.9%、「どちらかといえばそう思う」が26.1%、「自分の生活に置き換えて考えることができたか」については、「そう思う」が82.6%、「どちらかといえばそう思う」が17.4%だった。このような結果からも、「タクヤの意見を聞いて、親友としてタクヤの気持ちを優先させてあげる」ということが友情なのか、または「親友として、チームがベストな状態で走れるようシュンと交代することをタクヤに納得させる」ということが友情なのか、自分の考えを深められた1時間だったのではないかと考える。

(6) 番組への要望

「10分」という動画の時間がとても丁度よく、内容的にもわかりやすいので、生徒にとって、テーマについてとても考えやすいものだった。現在でているものに加え、更に様々な内容項目に照らし合わせた動画を増やしていただいたい。